



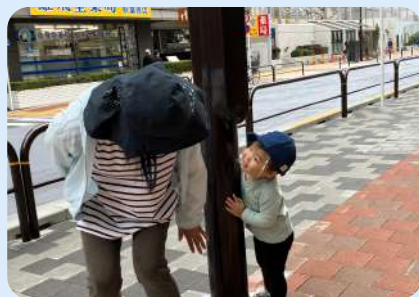
①身体的発達と自己との関わり

『安心感をもって、過ごす』

1歳児の時に、よく遊びに来ていたにこにこ組のお部屋もそこが生活の場所となると、いつもと違う雰囲気を感じる姿もありました。そのなかでも睡眠（午睡）の場面では、なかなか眠りに付けない子もいました。まずは、子ども達が安心して過ごせるようにクラスは違うけれど今まで親しみのある先生とまったり過ごせる時間も作りながら、にこにこ組がスタートしていきました。



新しい先生やお友達と少しずつ距離が近づく・・・



ぐんぐん組のときから好きだったかくれんぼ。進級してからもその延長線上で遊んでいたけれど、新しい先生やお友達との距離が近づいていくきっかけとなっていました。隠れる場所をお友達と一緒にわくわくしながら探して、隠れる。隠れると「もうくるかな?」とひそひそ、顔を見合わせてにやっと笑顔が溢れたり・・・

このドキドキしながら隠れる高揚感、見つける楽しさを一緒に共有できるかくれんぼは、子ども同士も大人と子どもの気持ちも自然と「たのしいね」「もういっかいやろう」と繋がっていきました。



「もう来るかな?」と待ちきれずにひょっこ顔を出す姿も可愛かったです♡



みつかちゃった!



【わらす組さんの存在も心の拠り所】

兄妹・姉妹がいる子達は、いつも遊んでくれるわらす組のお姉さんも親しみがあって、そばに居てくれることが心強い存在でした。

お母さん、お父さんと離れがたいときにもお姉さんがそばにいてくれると頑張れたり、お昼寝の時には、先生たちよりもずっと眠りにつくこともありました。子ども達の周りには安心できるお姉さん、お兄さんがたくさんいて、甘えられたり、時には少し難しい遊びを教えてくれる憧れの存在にもなっていました。



保育者や友達との関係を作っていく中で、
少しずつ食事・排泄・睡眠が安定してくる。